

教職研究科 入試説明会・公開授業*・フォーラム・成果発表会

入試説明会 (オンライン説明会も同時開催予定)	2021年7月17日(土)	場所(時間)(未定)
	2021年11月6日(土)	場所(時間)(未定)
	2022年1月8日(土)	場所(時間)(未定)
教育実践課題研究・成果発表会	2022年2月7日(月)～9日(水)	八王子キャンパス
フォーラム 公開授業	秋期開催予定	八王子キャンパス

*社会情勢等により、行事の日程変更・中止も考えられます。ホームページや下記のお問い合わせ先にてご確認ください。
*お問い合わせ先/八王子キャンパス 教務グループ TEL:042-678-3300

お問い合わせ先・資料請求

入試について

八王子キャンパス 入試グループ
TEL:042-678-3317

授業内容等について

八王子キャンパス 教務グループ
TEL:042-678-3300

奨学金について

八王子キャンパス 学生サポートセンター
TEL:042-678-3310

受付時間:月曜～金曜 8:45～17:00 土曜 8:45～12:30
※祝日・年末年始(12/29～1/3)および1/15を除く

資料請求について

▶インターネットによるお申し込み
<https://www.teikyo-u.ac.jp/documents/>

※資料・送料ともに無料です。お申し込みより、3日ほどでお届けいたします。(地域や時期により異なります)



個人情報の取り扱いについて

資料請求にあたってお知らせいただいたお客様の個人情報は、「学校法人帝京大学 個人情報保護方針」に基づき、入試関連資料の送付など、入試広報活動を行うために利用いたします。詳しくはホームページ<https://www.teikyo-u.ac.jp/>をご覧ください。

アクセス



京王線 聖蹟桜ヶ丘駅(せいせきさくらがおか)

▶京王バス2番のりば「帝京大学構内」行きに乗車(直行15分、各停17分)、終点「帝京大学構内」下車

京王線 高幡不動駅(たかはたふどう)

▶京王バス1番のりば「帝京大学構内」行きに乗車(直行11分、各停13分)、終点「帝京大学構内」下車

京王相模原線 京王多摩センター駅 小田急多摩線 小田急多摩センター駅 多摩モノレール 多摩センター駅

▶京王バス4番のりば「帝京大学構内」行きに乗車(直行14分、各停18分)、終点「帝京大学構内」下車

多摩モノレール 大塚・帝京大学駅

▶徒歩約15分



TEIKYO UNIVERSITY 2022

Graduate School of Teacher Education

帝京大学大学院 教職研究科 教職実践専攻

開設コース(入学定員30名)

■ スクールリーダーコース(募集人員10名程度) ▶P2・P3

■ 教育実践高度化コース(募集人員20名程度) ▶P4・P5

TEIKYO UNIVERSITY
Graduate School of Teacher Education

Teikyo University SORATIO SQUARE

入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー

教職研究科は、理論と実践の融合を図り、学校現場で生じている多様化・複雑化した諸課題に的確に対応できる、高度な専門性と実践的指導力を備えた教職実践者の育成を目指しています。そのために、学部等では、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教員免許状を取得し、教職教養や教科教育等に関する幅広い学修を行うことが大切です。学部等における上記のような学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

1. 経験に裏づけられた豊かで幅広い教育実践力を備え、学校・地域における中核的なリーダーに相応しい能力・素養を備えた現職教員。
2. 基礎的な教育実践力と様々な教育課題に対する対応力を備えた現在教職に就いていない社会人あるいは大学卒業予定者。
3. 教員としての高い使命感、情熱、行動力を有するとともに、子どもや学校教育の諸課題に対して、理論的、実践的に取り組む意欲を有する者。

教育課程の編成及び実施に関する方針 カリキュラム・ポリシー

学位授与に要求される資質、能力を身につけるために、教職研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 「高度な専門的知識と実践的能力」の修得は、共通基礎科目群、実習科目群、高度化専門科目群の各授業科目の全体においてなされる。
2. 「理論と実践を融合する力」の修得は、とりわけ実習科目群の授業科目においてなされる。
3. 「教育を医療との関連からとらえ直す力」の修得は、共通基礎科目群における「教育と医療の連携に関する領域」および高度化専門科目群における「教育と医療関連に関する科目」を中心に、他の授業科目と実習科目の学修を通してなされる。
4. 「教育実践の前提となる幅広い教養と豊かな人間性」の修得は、共通基礎科目群、実習科目群、高度化専門科目群の各授業科目の全体においてなされる。

学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー

教職研究科は、教育における理論と実践の融合を図り、医学部を有する本学の特色を生かして、教育と医療の連携を踏まえながら、専門的に高度な見識と実践的能力を有する個性豊かな教育実践者を育成する。具体的には、以下のような資質、能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 教育の多様な課題に対応できる高度な専門的知識と実践的能力を有する。
2. 教育の理論を実践的に検証し、理論と実践を融合する力を有する。
3. 教育の課題を医療との関連からとらえ直すことができる。
4. 教育実践の前提となる幅広い教養と豊かな人間性を身につける。

建学の精神

努力をすべての基とし
偏見を排し
幅広い知識を身につけ
国際的視野に立って判断ができ
実学を通して創造力および人間味豊かな
専門性ある人材の養成を目的とする

教員の学びを支援する、8つの「特色」

1. 教育と医療の連携 ▶P6・P7
医療に基づく人間理解ができる教員をめざす
2. 海外施設との連携 ▶P8
グローバルな視野をもった教員をめざす
3. 充実の教育実習 ▶P8・P11
提携協力校等の協力のもと、実践的・総合的に学べる
4. 充実した学習環境 ▶P8
図書館、模擬授業室等、学びを支援する充実の施設・設備
5. 学び続ける教師を支える ▶P9
修了生と大学教員による研究会やフォーラム等
6. 学校・地域との連携 ▶P9
近隣地域の教育委員会や学校との連携
7. モデル選択制 ▶P10・P12
コースや専門性に応じた授業選択のモデルを提供
8. ティーム・ティーチングによる理論と実践の融合 ▶P12・P13
多数の研究者教員と実践経験教員による複数担任制の授業編成

真に子どもと社会に貢献できる、優れた教職実践者を。

帝京大学の教育理念は、「自分流」。これは沖永荘一初代学長が建学の精神に盛り込まれた理想を実現するために掲げたものであり、「自ら問題意識をもって行動し、それによってもたらされる結果に対しては、自分で責任をもつ」との意があります。

こうした志を受け、1977年、帝京大学大学院は開設されました。医学研究科を端緒に、文学、薬学、経済学、法学、理工学、医療技術学、外国語、公衆衛生学、保健学へと教育・研究の領域を広げ、現在では11の研究科と24の専攻・コースを有する大学院へと発展。帝京大学大学院教職研究科は、2009年4月、本学初の専門職大学院として誕生しました。

本教職研究科は、これまで帝京大学が培ってき

た教育研究分野で特徴的なものを抽出し、「教育と医療の連携」をコンセプトとした本学独自の科目を設定。教育学と医学を横断する学修の機会を提供することで、困難な状況で育つ子どもたちへの医療と連携した支援のあり方への知見を得て、教科・領域等でより専門的に秀でた教職実践者を養成することをめざしています。教員陣には、これまで優れた教育実践や指導的な立場で支援され、なおかつ本学の建学の精神や教育理念に共鳴していただいた方をお招きし、目標に向かって研鑽を積み皆さんの思いを支えています。

本教職研究科の特色である実践的な指導を行うに際しては、東京都教育委員会、神奈川県教育委員会、川崎市教育委員会ならびに相模原

市教育委員会のご協力の下、多くの小・中学校、特別支援学校に連携協力校として参画していただいています。また、教職大学院は5年ごとに第三者評価(認証評価)を受審することが義務づけられていますが、本教職研究科は2019年に一般財団法人教員養成評価機構より教職大学院評価基準に適合していると認定されました。

帝京大学は2016年に創立50周年を迎え、新たな50年へと歩み始めました。グローバルな現代、「歴史をしのぐ未来」へ向けて、今日より一歩でも成長した明日をめざした新たな強みが必要です。今後も本教職研究科は、帝京大学が築き上げてきた伝統を受け継ぎながら、「自分流」の確かな実現に向けてたゆまぬ歩み続け

ていきます。さらには、幅広い教養と豊かな人間性を身につけた個性ある教職実践者を育成し、子ども・学校・地域を支える人材を輩出していく所存です。



理事長・学長
沖永 佳史
Yoshihito OKINAGA

東京都生まれ。慶應義塾大学理工学部を卒業後、同大学大学院理工学研究科機械工学専攻修士課程修了。現在、学校法人帝京大学理事長、帝京大学学長、帝京大学短期大学学長。

学び、挑戦し続ける高度な実践力をそなえた教師を育てる。

帝京大学大学院教職研究科がめざすものは、広い視野から教育実践を省察し、よりよい実践を創成できる教師の育成です。本教職研究科は、「理論と実践の往還」の重要性が指摘される前から、「理論と実践の融合」をめざ

し、「省察的実践力」のある教師教育を行ってきました。今日のような変動の激しい時代には、未来を切り拓く創造的な教育をデザインする力と、それに挑戦していくチャレンジ精神が求められます。本教職研究科のカリキュラムは、自ら学び、

挑戦し続ける教師になるための跳躍台でありたいとの念願に基づいて構成されています。そして本教職研究科の構成員がチームとして個々の学生にきめ細やかな教育ができるよう体制を整えています。



帝京大学大学院
教職研究科長
清水 静海
Shizumi SHIMIZU

スクール・リーダーコース

対象：現職教員（臨時採用・非常勤講師は除きます）

確かな指導理論と、実践力・応用力を備えた指導者になることをめざして

現場での経験の上に、より専門的な知識を備えた教育者を育成します。
学校の中だけではなく、行政や地域社会において、欠くことのできない指導力を備えたスクール・リーダーを養成します。

コースの特色

- 特色 1 的確な指導力**
 教育課程についての広い識見と、深い児童生徒理解に根ざして、授業に活かせる教材研究力、教育方法の開発力、カリキュラム開発力、授業・学習指導・評価力、授業研究を推進していく指導力を身に付ける。
- 特色 2 医学・心理学的視点からの考察・対応力**
 学校臨床実践領域において、多様な教育的ニーズに対応し、一人一人の学びを豊かに組織していく柔軟な対応力・コーディネート力を向上させる。
- 特色 3 学級・学校経営におけるリーダーシップ**
 学校を取り巻く環境の変化に伴って生じる問題や、困難な局面に向かい合う現場、教育行政の諸問題について、協働による実践を通じて解決を図るマネジメント・マインドを養う。
- 特色 4 次の世代を拓く特別支援教育推進への指導力**
 学校において特別支援教育についての専門性を発揮し、児童生徒の実態把握や個別の指導計画の作成への助言・指導を行えるコーディネート力を養う。
- 特色 5 広い視野で理論と実践を融合**
 学校実習等をリフレクション（省察）する機会を独自に設け、専門分野の理解や能力を踏まえ、広い視野で学校や地域における指導に活かしていく力を養う。

対象

教育職員免許法に定める免許状取得者である現職教員（臨時採用・非常勤講師を除く）

修業年限

2年
（1年修了プログラムも開設：現職教員は、実践研究歴により1年修了も可）

募集人員

10名程度

1年修了プログラム（短期履修制度）

現職教員で、入学者選抜試験結果・書類審査・口頭試問等により、教職研究科における1年間の履修によって、教職修士（専門職）の学位を取得できる能力があると認定される者を対象に開設。学校などにおける経歴・実践・研究実績等が「実習科目免除規定」の実習科目の到達目標・内容に照らして修得すべき内容に見合ったものかを審査して最大7単位まで実習科目が免除されます（P10・11参照）。

※教育委員会等の派遣による教員であることが望ましい。

スクール・リーダーコースに設置された4つのモデル

現職教員は以下の4つのモデルから1つを選択します。

- 教育管理職候補者モデル**
 教育委員会から派遣され、将来、教育機関で管理職を担う現職教員用モデル
- ミドルリーダーモデル**
 学校・教育委員会等でのミドルリーダーとしての力量を高めるモデル
- 養護教諭モデル**
 養護教諭としての力量を高めるためのモデル
- 特別支援教育モデル**
 特別支援教育に関する専門性を高め、特別支援教育のリーダーとしての力量を高めるモデル

Interview

専門知識を幅広く学び、自分の経験を見直すきっかけになった。

特別支援教育におけるキャリア教育を学ぶため、入学を希望しました。文部科学省教科調査官や指導主事等のご経験のある教授・講師の先生方の教えを受けられるのは、とても恵まれた環境だと思います。教育現場で、特別支援教育の推進が叫ばれて久しいですが、まだまだ現場で浸透しているとは言い難く、特別支援教育に携わる教員全てが専門性を獲得しているわけではないというのも課題です。そうした中、改めて教育と医療の連携という専門的な視点で学びを深めることは、非常に有意義でしたし、実践を振り返り、先につなげる学びを得たことは大きな収穫でした。また、教師をめざすストレートマスターの皆さんと一緒に学ぶことで、新たな視点を得ることができ、自分の原点に帰るような良い刺激をもらうことができました。

学校経営理論についても、1年間しっかり学ぶことができ、管理職として現場に戻った今、非常に参考になっています。子どもたちの個性や能力を最大限に伸ばす学校づくりを目標に、学びを生かしていきたいです。



【左】インタビュー 田島 由紀子
YUKIKO TAJIMA
特別支援学校管理職
教職研究科 教職実践専攻
スクール・リーダーコース
2011年度修了（東京都から派遣）

【右】田島先生ご同僚／教職研究科在学 國武 淳之介
JUNNOSUKE KUNITAKE
特別支援学校教諭
2020年度修了（東京都から派遣）



高山 直也
NAOYA TAKAYAMA
小学校管理職
教職研究科 教職実践専攻
スクール・リーダーコース
2009年度修了
（東京都から派遣）



星野 留美
RUMI HOSHINO
教育委員会指導主事
教職研究科 教職実践専攻
スクール・リーダーコース
2016年度修了
（神奈川県から派遣）

学びのPDCAサイクルを、学校経営や授業運営に生かしていく。

私は、現場一筋で20年経験を積んできましたが、改めて客観的・俯瞰的に小学校教育をとらえ直すことができました。その視点から理論を学び、さらに実習で実践し、改善点をまた理論に戻って再構成するといった、学びのPDCAサイクルを経験したことは、今の学校経営に非常に役立っており、経営のPDCAサイクルと同時に、教師の日々の授業や単元のPDCAサイクルにもつながっています。ストレートマスターの学生とのディスカッションで得た発見やアイデアは新鮮で驚きや気づきも多く、若手の教師が何を欲しているのかもよく理解することができました。さらに、子どもをめぐる様々な諸機関と学校を結ぶためのコーディネート力、そのために必要な臨床的な実践力を得られたことは、大きな力になりました。

学校とは、他者や他事によって何かに気づき、自分が変わる場所であり、「人間」創造、また、「生きる力」の根元をつくる場所です。この原点に立ち返り、「人間愛、平和愛、地球愛」をベースにした社会の創造者を育てていきたいと思っています。

他校種の先生やストレートマスターの学生に多くの刺激受け、視点が広がる。

本研究科は、医師である教授がいることや、教育と医療の連携という視点から学べる授業があることが魅力でした。以前も特別支援学校の教諭として、医師や看護師など専門職の方々と連携を意識していたつもりでしたが、大学院での学びを通じて、医療の視点を教育に生かすことが、いかに難しく厳しいことかを実感しました。インクルーシブ教育が推進される中、特別支援学校のセンター的機能の在り方についても問題意識をもって研究することができました。

また、特別支援学校以外の他校種に勤める教師と一緒に学ぶことで、他校種の現状や情報を知り、考え方や指導の視点が広がりました。ストレートマスターと演習する機会も多く、現場で働いた経験がないにもかかわらず、多くの実習経験を通して既実践的な力を持ち合わせていることを頼もしく思うと同時に、様々な刺激を与えてもらいました。

今後は、経験の浅い先生方の見本となり、多くの先生方を引っ張っていきように、学び続け、磨き続けられる自分でいたい。

教育実践高度化コース

対象：ストレートマスター(学部新卒者等)

新しい学校づくりの 有力な一員となることをめざして

教職に就いていない教員志望者を対象にさまざまな角度から教育を考察する力の習得をめざします。
指導・実践力はもちろん、理論と実践を融合する力、創造的な課題解決力を持つ、新しい時代の教員を養成します。

コースの特色

- 特色 1** 得意分野を持つ教職者

教育課程の理論と構成についての理解を踏まえて、各教科・領域の関係性に配慮しながら、自分の関心のある教科・領域を核として、授業づくりについての実践力を養う。
- 特色 2** 臨床実践と児童生徒心理

児童生徒や保護者とのコミュニケーションを密にし、カウンセリング・マインドを養い、今日の社会的・文化的環境の中で児童生徒への心理的・教育的援助をする力を養う。
- 特色 3** 学級・学校経営に関する専門知識

個に応じ、個が生きる集団づくりをめざし、学級経営の最新の方法や力量を高めるとともに、新しい学校づくりへ参画していく力を養う。
- 特色 4** 特別支援教育の実践

知的障害・肢体不自由・病弱の児童生徒のための教育課程編成や、個別の指導計画の作成と実施および評価について、教育学・医学・心理学等の専門的理解を高め、実践力を養う。
- 特色 5** 広い視野で理論と実践を融合

学校実習等をリフレクション(省察)する機会を独自に設け、医学も含め、専門分野の関連を広い視野でとらえ、具体的事実に基づいて臨想的に教育・研究を進める力を養う。

対象

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭の教育職員一種免許状の取得者または取得見込みの者で、現職教員以外の者(臨時採用・非常勤講師等は可能)

修業年限

2年
(3年修了プログラムも開設:小学校教員免許状取得も可)

募集人員

20名程度

3年修了プログラム

幼稚園、中学校、高等学校の教育職員一種免許状を取得済みまたは取得見込みの者で、小学校教員としてのキャリア形成をめざす者を対象に開設。教職研究科における3年間の学習を通して、小学校教育職員一種免許状、さらに、専修免許状が取得できます。

教育実践高度化コースに設置された3つのモデル

学部卒者は以下の3つのモデルから1つを選択します。

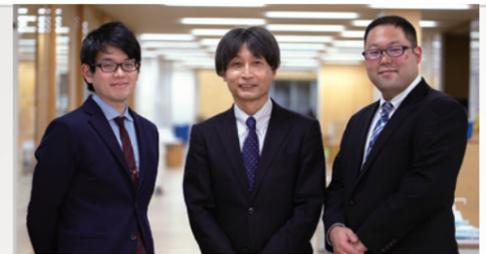
<p>小・中学校・ 高等学校教員 モデル</p> <p>高度な専門性を有する 小・中学校・高等学校教諭を めざすモデル</p>	<p>養護教諭 モデル</p> <p>高度な専門性を有する 養護教諭をめざすモデル</p>	<p>特別支援教育 モデル</p> <p>特別支援学校教諭一種 免許状を有し、特別支援教育の 専門家をめざすモデル</p>
--	--	--

Interview

数多くの実践経験をもとに、子どもの 個性を引き出せる学級経営をめざす。

大学の卒業論文作成でお世話になった浦野東洋一教授の講義を引き続き受けたいと、入学しました。小学校教員の免許を取得できる点も魅力でした。大学院では、数多くの模擬授業や長期の教育実習を経験しました。模擬授業では、多くの方に批評していただくだけでなく、他の学生の授業を見ることは普段はなかなかできないことで、非常に貴重な経験だったと感じています。長期の教育実習や授業実践では現場力が養われ、実際に現場で子どもと向き合う時にも適切に対応でき、また学習指導案作成などもスムーズになりました。

今後の目標は、学んだことを生かし、生徒たちの個性を伸ばせる学習指導・学級経営に力を入れることです。子どもたちが様々な変化に対応していくためには、基本的な知識に加え、自らの個性を最大限に発揮できる力が重要だと感じています。小学校での6年間の学びで、私たち教師がどれだけ子どもの個性を引き出し伸ばしていけるのか、目の前の子どもたちの学びが深まり、笑顔を輝かせて発言してくれるよう、力を尽くしたいです。



[右] インタビュー **齊藤 昌宏**
MASAHIRO SAITO
小学校教諭
教職研究科 教育実践高度化コース
2016年度修了
帝京大学 文学部 教育学科卒業

[左] 齊藤先生
ご同僚/
教職研究科
修了生 **村越 一宏**
KAZUHIRO MURAKOSHI
小学校教諭
教職研究科 教育実践高度化コース
2014年度修了

[中央] 教職研究科 准教授 / 帝京大学小学校 校長
石井 卓之
TAKAYUKI ISHII



高木 克将
KATSUMASA TAKAGI
中学校主任教諭
教職研究科
教育実践高度化コース
2011年度修了
東海大学 海洋学部
海洋資源学科卒業



原田 悠
CHIKA HARADA
小学校教諭
教職研究科
教育実践高度化コース
2014年度修了
国士館大学 21世紀アジア学部
21世紀アジア学科卒業

実践的な学びの場で、 理科教育の専門性を 追求できた。

大学在学中に理科の教員免許は取得したのですが、本格的に教師を志したときに不安があった教職教養を身につけるとともに、理科教育の専門性も高めたいと思い、大学院に進学しました。実践的な学びは有意義なことばかりで、さらに理科教育研究会の全国大会にも参加させていただいたことで、理科教育における様々な指導法や自作教材を知ることができました。また、教育実習では、現場の校長先生はじめたくさんの方に厳しくも温かく支えられ、多くのことを教えていただき、人を育てる教育の奥深さを実感しました。

教育現場では、多様な価値観と接することになります。自分の価値観を押し付けるのも、相手の価値観を尊重しすぎるのも良くないので、人として教師として人権感覚を磨くことが大切だと感じています。今、教育現場では、これまでの常識が変わってきており、柔軟な対応力を発揮することが求められています。どのような状況下でも、大学院での学び・経験をもとに、日々学び続ける姿勢を持ち続けたいと思います。

医療の知識を得て、 子どもの訴えに適切に 対処できる教師に。

学びの基礎ともいえる小学校での6年間の土台作りに関わりたいたと、小学校教員の免許取得をめざし、入学を決めました。特に、医療との連携の分野について熱心に学び、「頭が痛い」という1つの児童の訴えにしても、様々な見方や考え方があることに気づくことができました。例えば、子どもが頭痛を訴える曜日や時間を分析することで、思わぬ原因を発見することができます。あらゆる方面から分析する「教育と医療との連携」を通して、教育現場で具体的に対策を講じることができるようになりました。教師がしっかりと医療知識を持っていることで、児童に寄り添った支援を行えるだけでなく、保護者にも安心感を与えられます。在学時の学びが現場で生かされていることを、日々感じています。

今後は、学校の中核を担う立場として求められることが変わってきます。学校経営的な目線でも、学校の強みや弱み、地域の特性や子どもたちを取り巻く環境を自分なりに分析し、学校経営にも参画できるようにすることが目標です。

教育と医療の連携

病気・障害、子どもを巡る課題を学ぶ

授業や学校実習、病院診療見学(希望者)を通じて、医療体制、学校医の役割、子どもの成長・発達、感染症、アレルギー、てんかん、頭痛、起立性低血圧、心疾患、腎疾患、血液疾患、悪性腫瘍、発達障害・知的障害、心身症、低身長・やせ・肥満、脳性麻痺、筋ジストロフィー、軟骨無形成症、水頭症、二分脊椎、ダウン症、睡眠とその障害、メディアと健康、スポーツと健康、性格特性、PTSD、適応障害、いじめ、登校拒否、思春期の身体と心の課題、読み書き障害、コミュニケーションの発達、記憶のメカニズム、ミラーニューロンの役割、視覚認知など

関連する授業科目

学校生活と子どもの健康・病気、児童生徒の心のケアと精神科学、発達障害児・病弱児の心理、発達障害児・病弱児の生理・病理、知的障害児の心理・生理・病理、肢体不自由児の心理・生理・病理、発達障害等の理解と指導・支援、脳科学と教育



帝京大学医学部附属病院

救命救急実習

板橋キャンパス医学部附属病院の支援を受けて、シミュレーション教育研究センターにて、専門家による最新の救命技能を学ぶとともに、教育現場において起こり得る教職員と児童生徒の救急救命場面をシミュレーションし、学校としての対応を学びます。

関連する授業科目

学校生活と子どもの健康・病気



「教育と医療の連携」の必要性

①子ども理解のために

教育活動において、子ども理解は基本です。子ども理解には、性格、特性、体質、病気、障害などの全てを含みます。

②突発的な出来事への対処のために

てんかん発作、喘息発作、アナフィラキシー、熱中症、不整脈などは授業中やクラブ活動中に起きることがあります。そのため、最初の対応は学級担任が行うこともあります。養護教諭にとっては、より確実な知識と技能が求められます。

③医師や病院との連携のコーディネートのために

病気や障害等で病院を通院中の子どもの学校生活を豊かにするために、学校と医療機関の連携が必要なことが有ります。その連携を推進するために、医学医療的な考え方を理解したコーディネーターが求められます。

4つのアプローチ

臨床教育的アプローチ

教育哲学をもとに、気分や体調など子どもの状況に即した教育のために必要な医療との連携

特別支援教育的アプローチ

特別なニーズを要する子どもを支援する教育のために必要な医療との連携

学校経営的アプローチ

医学的アプローチ

子どもの心身の病気や障害を理解し、突発的な対応のために必要な医学的知識や技能に基づく教育のために必要な医療との連携

教育活動的アプローチ

当該児童も含めて、学級や学校において包括的な教育活動を進めるために必要な医療との連携

「教育と医療の連携」を4つのアプローチから考える

学校は、子どものその時々状態に応じて(臨床教育的アプローチ)、ときに障害や病気に配慮しつつ(特別支援教育的アプローチ)、一人ひとりの児童生徒にとっての学びを個人レベル(教育活動的アプローチ)で保障し、それら全てを組織的に管理しています(学校経営的アプローチ)。そして、それらの活動は、子どもの心身の発達に関する医学・心理学的知識に基づいていたり、障害に対する医療との連携が不可欠であったり、教育活動が児童生徒の心身に及ぼす影響に

配慮したり、不慮の事故や災害発現時の救急対応に備えたりと、少なからず医学医療の領域が含まれています(医学的アプローチ)。そのため、本教職研究科では「教育と医療の連携」を全ての授業科目と実習において配慮していきます。そのなかでも医学部を兼任する小児科医である専任教員が実務家教員とのチーム・ティーチングで子どもの心身の発達と病気・障害、発達障害の診断と医療、学習障害のアセスメントと指導、救命救急実習などを担当していることも特徴です。

ワクワク学習教室

教職大学院ワクワク学習教室では、板橋キャンパス医学部附属病院小児科LD外来を受診した学習に躓く児童に対する個別学習支援を行っています。医学・心理学・教育学の連携による学習の躓きの原因の系統的・総合的なアセスメントと、それに基づく学習支援の実践を学ぶことができます。(希望者対応)



帝京発達研究会・読み書きに躓く児童への学習支援研修会

ワクワク学習教室が主催する研究会・研修会です。帝京発達研究会では、子どもの発達を様々な側面から捉えて講演・ラウンドテーブル・ワークショップなどの形態で学びます。読み書きに躓く児童への学習支援研修会は、ワクワク学習教室での学習支援の事例を中心に、学習の躓きに対するアセスメントと支援の実践を学びます。研究会や研修会は地域連携としての役割も果たしています。(自由参加)



「海外学校教育実地研究」でグローバルな視野を養う

2016年度より海外の学校教育を実際に訪問・調査し、実学を通して学ぶ機会を得るための科目「海外学校教育実地研究」を開設しています。生徒や教師自身の教育に対する意識の違いを肌で感じ、グローバルな視点から多様な学校教育のあり方を学ぶことをねらいとしています。そして現地では、イギリスにある帝京大学の関連施設を拠点としながら様々な現地の学校を視察します。イングランド北東部にあるダラムでは、帝京大学グループダラムキャンパス内の学生寮に宿泊しながら特別支援学校や公立中等教育学校、オックスフォード・ケンブリッジに次ぐ名門ダラム大学、Durham School（私立寮制学校）などを訪問します。ロンドンでは帝京ロンドン学園に宿泊しながら、同じ施設内にあるISCA（ロンドン芸術国際高校）やHorsenden Primary School（公立小学校）、ロンドン日本人学校の視察を予定しています。また、ロンドンは世界的な観光都市なので、大英博物館などの文化施設の視察もおこないながら幅広い視野を養うことも可能です。

関連する授業科目

海外学校教育実地研究/グローバル化と国際教育



帝京大学グループダラムキャンパス

学び続ける教師を支える

本職研究科は創設以来、200名を超える修了生を輩出しています。現在、管理職、指導主事、ミドルリーダー、学年主任、研究主任など、多くの修了生が学校や教育関係機関の第一線で活躍しています。また、毎年実施される修了生調査からは「経験や研修を重ね教師の専門性を高めたい」、「管理職を目指したい」、「再び大学院などで学びたい」という修了生の意欲的な学びの姿が報告されています。本研究科では、学び続ける修了生たちを支えるために、フォーラム、公開授業などの行事、授業研究会、発達研究会、特支会など様々な学修の場を提供しています。また修了生が自主的に開催する学習会の支援なども通じて、修了生との交流の場、教育現場での修了生の悩みや困難さを共感できる場としても、修了後も教師の継続的な専門職開発を支えています。



フォーラム

充実の教育実習

本研究科での教育実習と学部段階での教育実習との大きな違いは、実習生が既に教育職員免許状を取得しているかということです。実習校では、本研究科の実習生に大きな期待を寄せています。具体的には、週一回、長期間にわたって学校教育の具体を学ぶ実習と一定期間集中的に行う実習とがあります。前者は、学校の実情を鳥瞰して、学校の強みや課題、さらに全般的な教職員の諸活動に触れ、具体的な教育指導を体得しながらその熟達を図るものです。後者は、具体的な授業実践を通して学習指導に関わる技能や技術の実際を体得するものと学校経営に参画して組織の一員としての力量を高めるものがあります。大学院で学んだ理論を実習校での実践を通して実感すること、つまり、理論知を実践知に転換することで教員としての資質能力を獲得することがねらいです。



帝京大学小学校

隣接する帝京大学小学校と、公開授業や研究協議の共同研究会を行うなど盛んに交流しています。

地域貢献と連携

本研究科では帝京大学の地域貢献の一環として、八王子キャンパスが立地している多摩地域および隣接している相模原市、横浜市の実習受入校の中から共同研究校を指定し、各校の研究活動をサポートしています。特に、多摩市教育委員会とは、「教員育成プロジェクト」を立ち上げ、学校教育の充実・改善および実践的指導力を身につけた教員の育成に関する取り組みを共同で行っています。また、板橋キャンパス周辺の公立学校や教育委員会とは研究会・研修会等を通じて連携を深め、発達障害・学習障害に関する指導に困難を感じている先生方を支援しています。さらに、2017年に独立行政法人教職員支援機構とも協定を結び、機構が実施する講座を本研究科の講座として活用できる体制を整え、教師・学校・地域とつながった教職研究科づくりをめざしています。



公開授業

充実した学習環境【帝京大学八王子キャンパスの施設・設備】（一例）



メディアライブラリーセンター (MELIC)

蔵書約80万冊の学術情報の拠点。大学院生専用の閲覧室や無線LAN完備で仲間との学習も可能なメディアラウンジなど快適な研究・学習空間を提供しています。



ACT2

多様な学習スタイルへ対応する施設。スマホやPCから予約して利用できるパソコン・プリンタやグループ学習室があり、論文作成やプレゼン準備に最適です。



ACT3

持ち寄ったアイデアをどんどん書き込めるPAPER SEATやグループワークを活性化させるACT WALLなどアイデアを形にするツール満載の学びの空間です。



ソラティオキッチン

ソラティオスクエア6階にある、天井が高く光の差し込み北歐風の食堂。広々とした約1,000席の座席数があり、天気の良いと都心まで眺めることもできます。



模擬授業室

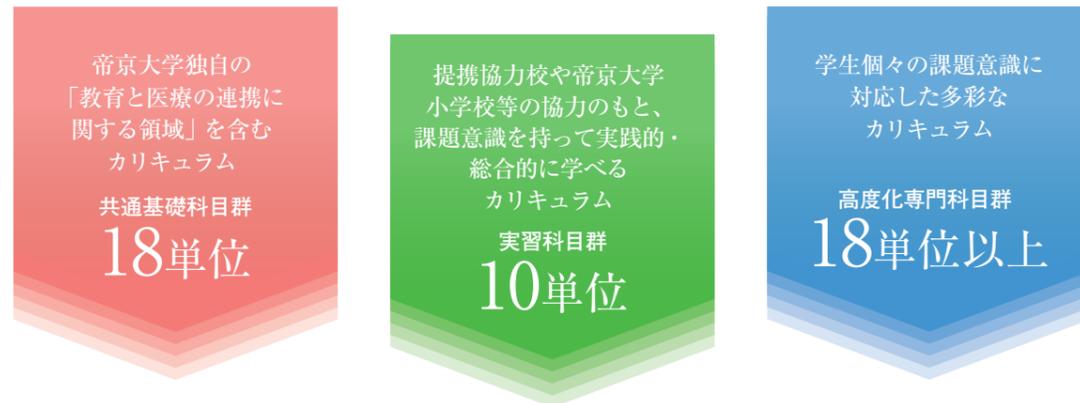
公立学校で使用されている机や椅子の他、電子黒板等ICT機器を整備し、模擬授業や発表と協議を行っています。日頃の研究の成果を発表する貴重な場となる教室です。



教職研究科共同研究室

個別の机やパソコン等が整備され参考図書や修了生の報告書等が収納されています。共有スペースがあり、職員室の様に学生同士が話し合い、互いに切磋琢磨しています。

3つの科目群を有機的に学び、個性ある高度教職実践者を養成



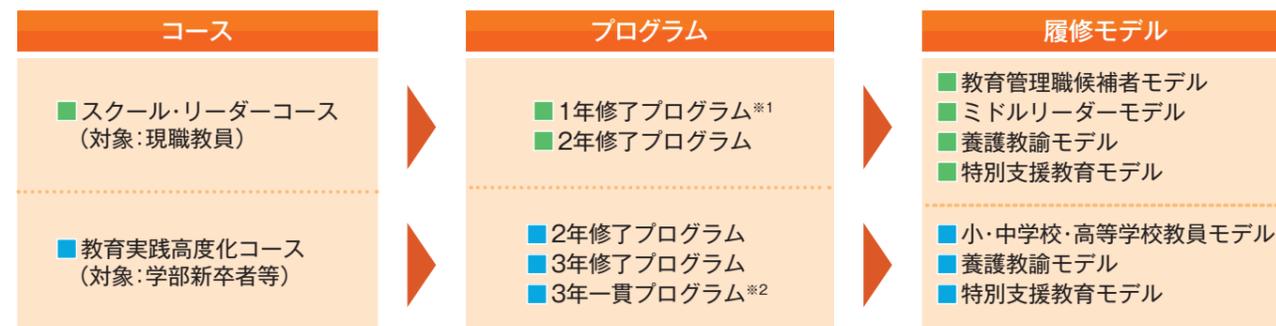
科目群	領域	特徴
共通基礎科目群	教育課程の編成・実施に関する領域	文部科学省・近隣教育委員会との合意で定められた内容を網羅した上で、本学教職研究科独自の「教育と医療の連携に関する領域」を設置
	各教科等の実践的な指導方法に関する領域	
	生徒指導・教育相談に関する領域	
	学級経営・学校経営に関する領域	
	学校教育と教員の在り方に関する領域	
教育と医療の連携に関する領域		
実習科目群	実習に関する領域	2週間と3週間の集中実習に併せて教育実践高度化コースは、年間を通じた週1日の実習
高度化専門科目群	授業実践領域	授業改善・開発研究に関する科目 教科教育開発研究に関する科目
	学校臨床実践領域	生徒指導・教育相談に関する科目 学校臨床実践研究に関する科目
	学級・学校経営実践領域	学級経営に関する科目 学校経営に関する科目
	特別支援教育実践領域	教育制度、仕組みに関する科目 心理・生理・病理に関する科目 教育方法に関する科目
	発展的領域	総合的・横断的な教育課題に関する科目 教育と医療関連に関する科目
		「授業実践領域」には、授業改善・開発研究に資する実践的な授業力向上に関する7科目を設置 その他、特別支援教育、ICT・情報教育、医療連携関連、国際教育等に関する科目を重点的に設置 一部の科目を除き、高度な研究経験を積んだ研究者教員と、教育経験豊かな実務家教員とのペアで授業を実施

教職研究科のコース・プログラム・履修モデル

詳細はP2~P5・P12~P13へ

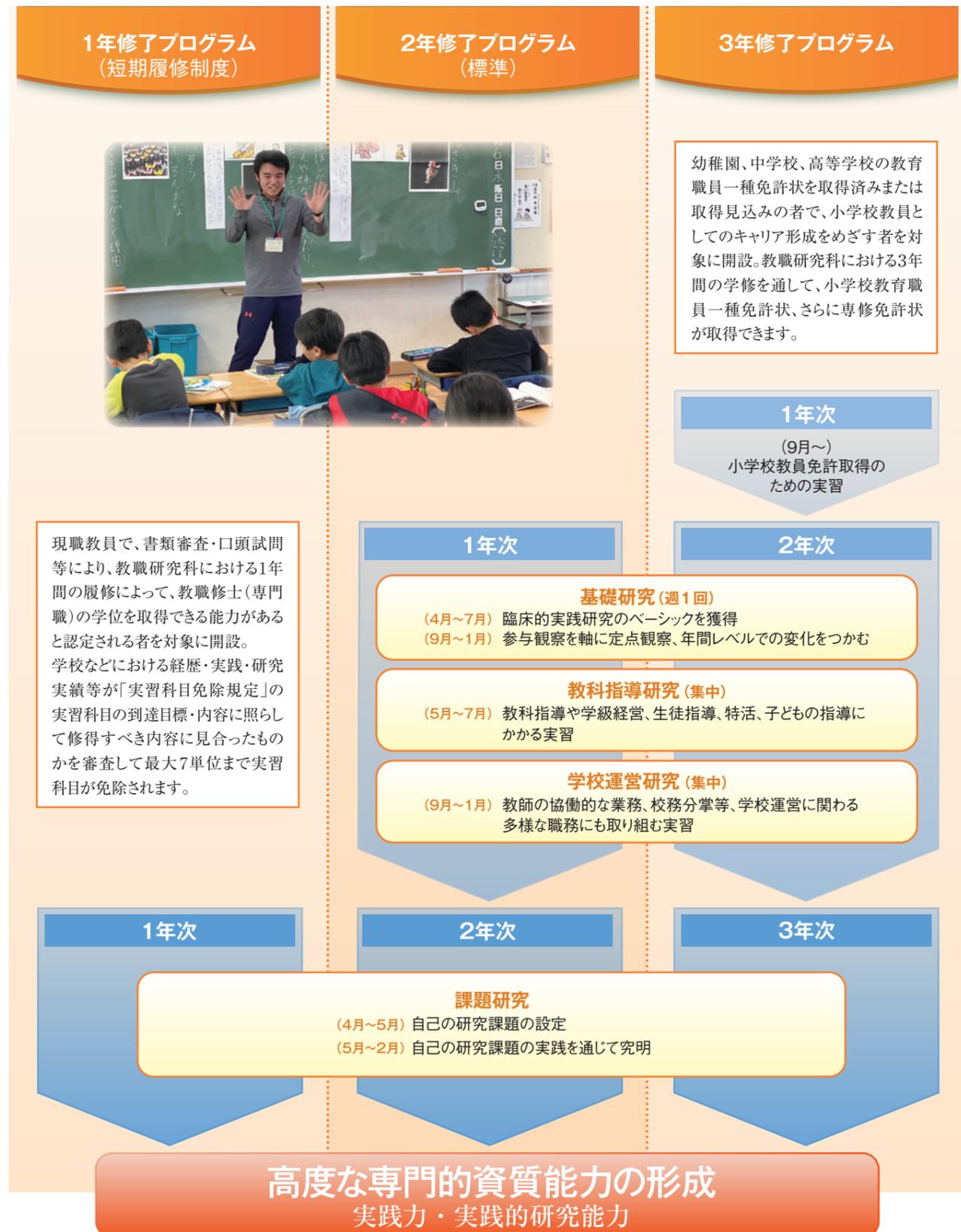
現職教員か学部卒者かでコースが分かれます。プログラムは、学部卒者は入学願書提出時に、現職教員は入学試験での実習科目免除決定後に決まります。履修モデルは入学前指導(3月予定)で確認し決定します。

授業科目は、共通基礎科目群(全員が履修)と高度化専門科目群(選択科目)とからなり、各履修モデルで高度化専門科目群にはモデル指定科目が設置されていますが、モデル指定科目以外の高度化専門科目も履修制限規則内で履修が可能です。



※1 実習科目を5単位以上免除の条件を満たす現職教員
※2 帝京大学八王子キャンパスの学部との一貫プログラム

実習科目の履修スケジュール



- 授与学位:教職修士(専門職)
- 取得できる免許状:小学校・中学校・高等学校教諭・特別支援学校教諭および養護教諭の各種専修免許状

●共通基礎科目群(両コース共通の必修科目)

領域	科目
教育課程の編成・実施に関する領域	創意ある教育課程の作成と評価*
各教科等の実践的な指導方法に関する領域	確かな学力の育成と学習指導計画の作成
	個の学びを支援する授業方法と授業研究
生徒指導・教育相談に関する領域	生徒指導・特別活動の理論と事例研究
	児童生徒の心の理解とケア
学級経営・学校経営に関する領域	学習・生活集団の育成と学級経営
	学校組織マネジメントと特色ある学校づくり
学校教育と教員の在り方に関する領域	変化する社会と学校教育の役割*
教育と医療の連携に関する領域	学校生活と子どもの健康・病気

*コースにより、クラスにわかれて学修します。

●実習科目群(両コース共通の必修科目)

領域	科目	スクール・リーダーコース	教育実践高度化コース
実習に関する領域	基礎研究	2年修了プログラムのみ履修	○
	教科指導研究	2年修了プログラムのみ履修	○
	学校運営研究	2年修了プログラムのみ履修(一部例外あり)	○
	課題研究	○	○



●高度化専門科目群

領域	科目	スクール・リーダーコース				教育実践高度化コース		
		教育管理職候補者モデル	ミドルリーダーモデル	養護教諭モデル	特別支援教育モデル	小・中学校・高等学校教員モデル	養護教諭モデル	特別支援教育モデル
授業実践領域	授業改善・開発研究に関する科目	授業づくりと教材研究Ⅰ(人文系)						
		授業づくりと教材研究Ⅱ(自然系)						
		授業づくりと教材研究Ⅲ(総合系)					4科目	
		授業づくりと指導法研究Ⅰ(人文系)					選択	
		授業づくりと指導法研究Ⅱ(自然系)						
		授業づくりと指導法研究Ⅲ(総合系)						
		道徳性を育てる授業づくりと授業研究					○	
教科教育開発研究に関する科目	カリキュラムの開発評価と実践研究		○					
	学力論・評価方法と実践研究		○					
生徒指導・教育相談に関する科目	チームで取り組む生徒指導とネットワークづくり		○	○				
	学校カウンセリングの理論と実際(※隔年開講)		○	○			○	
	児童生徒理解と心理教育的アセスメント(※隔年開講)		○	○			○	
	問題行動の究明と児童生徒指導計画			○		○	○	
学校臨床実践研究に関する科目	教育実践リフレクションⅠ[必修]	○	○	○	○	○	○	
	教育実践リフレクションⅡ[必修]	○	○	○	○	○	○	
	教育実践リフレクションⅢ[必修]	2年修了プログラムのみ履修				○	○	○
	教育実践リフレクションⅣ[必修]	2年修了プログラムのみ履修				○	○	○
	授業づくりとメンタリング							
学級・学校経営実践領域	学級経営に関する科目	個が生きる学級集団づくりと実践研究		○		○	○	
		開かれた学級・学年経営と実践研究	○	○				
	学校経営に関する科目	学校安全・危機管理と事例研究	○		○		○	
特別支援教育実践領域	教育制度・仕組みに関する科目	学校組織マネジメントと学校評価						
		「開かれた学校づくり」と事例研究						
		小学校における特別支援教育研究				○		○
	発達障害教育に関する科目	発達障害教育研究				○		○
		知的障害教育研究				○		○
		肢体不自由教育研究				○		○
		発達障害児・病弱児の心理				○		○
	心理・生理・病理に関する科目	発達障害児・病弱児の生理・病理				○		○
		知的障害児の心理・生理・病理				○		○
		肢体不自由児の心理・生理・病理				○		○
教育方法に関する科目	交流及び共同学習実践研究				○		○	
	発達障害教育授業研究				○		○	
	知的障害教育授業研究				○		○	
発展的領域	総合的・横断的な教育課題に関する科目	肢体不自由教育授業研究				○		○
		教育関係法規の理論と実際	○	○				
		これからの学校教育と教育政策・行政	○		○			○
		グローバル化と国際教育						
		情報リテラシーの育成と教育情報の活用・管理	○					
		保育・子育て支援と保幼小の連携						
	教育と医療関連に関する科目	地球・生命・環境と人類	○		○			
		海外学校教育実地研究						
		発達障害等の理解と指導・支援		○				○
		児童生徒の心のケアと精神科学	○		○			○
脳科学と教育		○						

○:各コースモデルの開講科目
 *一部の科目を除き、高度な研究経験を積んだ研究者教員と、教育経験豊かな実務家教員とのペアで授業(チーム・ティーチング)を行います。
 *各科目の配当単位は1~3単位です。
 *履修年次は、コースやプログラムによって異なります。コースについてはP2~5、プログラム、モデルについてはP10をご参照ください。

専任教員

(専任教員18名)

<p>教授</p> <p>赤堀 博行 Hirayuki AKABORI</p> <p>専門分野 道徳教育、教育課程、生徒指導</p> <p>略歴 東京都公立小学校教諭、調布市教育委員会指導主事、東京都教育委員会指導主事、同主任指導主事、東京都知事本局企画調整主査(併用)、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所教育課程調査官を経て、平成29年度より就任。</p>	<p>教授</p> <p>荒巻 恵子 Keiko ARAMAKI</p> <p>専門分野 インクルーシブ教育学、教育工学、情報科教育、特別支援教育</p> <p>略歴 東京大学生産技術研究所、早稲田大学メディアネットワークセンター勤務を経て、早稲田大学高等学院講師、東京学芸大学教員養成開発連携センター特命教授兼任。平成26年度より就任。</p>	<p>准教授</p> <p>石井 卓之 Takayuki ISHII</p> <p>専門分野 体育科教育、学校経営、キャリア教育</p> <p>略歴 東京都公立小学校教諭、東大和市教育委員会及び東京都教職員研修センター指導主事、西東京市教育委員会統括指導主事、東大和市教育委員会指導室長、新宿区・港区公立小学校長、全国連合小学校長会健全育成部会委員長を歴任。令和2年度より就任。</p>	<p>教授</p> <p>魚山 秀介 Shusuke UOYAMA</p> <p>専門分野 社会科教育、教育方法</p> <p>略歴 帝京ロンドン学園、帝京中等学校教諭を経て平成22年に帝京大学へ着任。帝京ロンドン学園教頭(平成28年～29年度、大学より出向)などを歴任。</p>	<p>准教授</p> <p>蒲地 啓子 Keiko KAMACHI</p> <p>専門分野 生徒指導・教育相談、特別支援教育</p> <p>略歴 横浜市立小学校教諭、同市教育委員会指導部人権教育・児童生徒課指導主事、同首席指導主事、同担当課長、東部学校教育事務所指導主事室長、同市立小学校長を歴任。公認心理士、学校心理士。平成31年度より就任。</p>	<p>教授</p> <p>小山 恵美子 Emiko KOYAMA</p> <p>専門分野 国語科教育、実践研究、教育課程論</p> <p>略歴 博士(教育学)。東京学芸大学附属大泉小学校教諭、東京学芸大学教育学部兼任講師、東京女子館小学校教諭を経て、平成21年度より就任。平成30年度より帝京大学メディアライブラリーセンター副館長、平成31年度より同センター館長に就任。</p>
<p>教授</p> <p>坂本 和良 Kazuyoshi SAKAMOTO</p> <p>専門分野 教育行政、算数・数学教育</p> <p>略歴 東京都公立中学校教諭、世田谷区教育委員会指導主事、東京都教育委員会指導主事、同主任指導主事、都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課長、同指導部長を歴任。平成25年度より就任。</p>	<p>教授・研究科長</p> <p>清水 静海 Shizumi SHIMIZU</p> <p>専門分野 算数・数学教育、学習指導と学習評価、教育課程</p> <p>略歴 愛知教育大学助教授、文部省教科調査官、筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授、帝京大学文学部教授を経て、平成24年度より教育学部教授、初等教育学科長を兼任(平成27年度まで)。帝京大学メディアライブラリーセンター館長を兼任(平成29年～30年)の間、中央教育審議会専門委員、日本学術会議連携会員を歴任。現在、日本数学教育学会名誉会長、新算数教育研究会会長。平成23年度より就任。</p>	<p>准教授</p> <p>杉山 正宏 Masahiro SUGIYAMA</p> <p>専門分野 社会科教育、学校経営、生徒指導</p> <p>略歴 ニュージーランド国オークランド日本語補習授業校教諭を経て1989年から神奈川県公立小学校教諭。2011年伊勢原市教育センター副主幹兼指導主事。2015年伊勢原市教育センター所長。2016年伊勢原市立小学校校長。令和3年度より就任。</p>	<p>講師</p> <p>爲川 雄二 Yuji TAMEKAWA</p> <p>専門分野 特別支援教育(発達障害・知的障害・聴覚言語障害)、情報教育</p> <p>略歴 博士(教育情報学)。日本発達障害学会評議員・編集委員。日本聴覚言語障害学会理事・編集委員。中国学園大学現代生活学部講師、東北大学大学院教育情報学研究所助手、東北大学大学院教育学研究科助教を経て、令和2年度より就任。</p>	<p>講師</p> <p>町支 大祐 Daisuke CHOSHI</p> <p>専門分野 教師教育、教育工学、教育経営学</p> <p>略歴 筑波大学付属駒場高等学校講師、横浜市立中学校教諭(社会科)を経て、研究の道へ。青山学院大学助手、東京大学研究員、立教大学助教を経て、平成31年度より就任。</p>	<p>准教授</p> <p>中村 雅子 Masako NAKAMURA</p> <p>専門分野 学校経営、教育課程論、地域連携、伝統文化、特別支援教育・家庭教育</p> <p>略歴 神奈川県及び東京都公立小学校教諭、東京都教育委員会指導主事、都小学校校長(町田市立鶴川第二小学校長、豊島区立長崎小学校長、南池袋小学校長)、東京学芸大学非常勤講師(教員養成実地指導講師)、全国情緒障害教育研究会会長、日本子ども家庭福祉学会会員を歴任。平成31年度より就任。</p>
<p>教授</p> <p>藤井 靖史 Yasushi FUJII</p> <p>専門分野 発達神経学</p> <p>略歴 博士(医学)。福井医科大学小児科研修医、福井医科大学小児科助手、ベルギー・リューベン大学研究員、平成10年より帝京大学医学部小児科助手、平成15年より同講師を経て、平成20年度より帝京大学文学部教授(医学部小児科兼任 臨床准教授)。平成21年度より就任。</p>	<p>准教授</p> <p>細戸 一佳 Kazuyoshi HOSODO</p> <p>専門分野 道徳教育、社会科教育</p> <p>略歴 聖徳大学人文学部児童学科講師、児童学部児童学科講師、准教授を経て平成26年度より就任。</p>	<p>准教授</p> <p>前島 正明 Masaaki MAEJIMA</p> <p>専門分野 学校経営、理科教育、生徒指導</p> <p>略歴 東京都公立中学校教諭、西東京市教育委員会指導主事、同教育指導課長、東京都教育委員会指導主事、同主任指導主事、同主任管理主事、東京都青少年・治安対策本部青少年担当課長、東京都公立中学校長を歴任。令和2年度より就任。</p>	<p>客員教授</p> <p>鈴木 康仁 Yasuyoshi SUZUKI</p> <p>専門分野 総合的な学習、社会科教育、教育課程</p> <p>略歴 相模原市立小学校教諭、同市教育委員会指導主事、同市教育委員会担当課長、同市教育委員会参事兼総合学習センター所長、同市立小学校校長、同市立小中学校長会会長を歴任。平成29年度より就任。</p>	<p>客員准教授</p> <p>西谷 晴美 Harumi NISHITANI</p> <p>専門分野 対人コミュニケーション、非行臨床</p> <p>略歴 神奈川県警察本部で少年の健全育成、非行防止、被害者支援等に従事。被害者支援室副室長、少年相談・保護センター所長を歴任。臨床心理士、公認心理師。心理臨床学会・犯罪心理学会・更生保護学会所属。平成30年度より就任。</p>	<p>客員教授</p> <p>田中 壮一郎 Soichiro TANAKA</p> <p>専門分野 教育行政</p> <p>略歴 文部省入省、福岡県指導第一課長、文部省教職員課長、香川県教育長、文部省財務課長、総括審議官、文部科学省スポーツ・青少年局長、生涯学習政策局長、文部科学審議官(独)国立青少年教育振興機構理事長を歴任。平成28年度より就任。</p>

兼任・兼任教員

(兼任・兼任教員12名)

<p>神田 基史 Motoshi KANDA</p> <p>教授</p> <p>専門分野 特別支援教育・知的障害</p>	<p>中村 晋 Susumu NAKAMURA</p> <p>准教授</p> <p>専門分野 特別支援教育・知的障害</p>	<p>森 富子 Tomiko MORI</p> <p>客員教授</p> <p>専門分野 理科教育・生活科・総合的な学習教育</p>	<p>杉坂 郁子 Ikuko SUGISAKA</p> <p>客員教授</p> <p>専門分野 生徒指導、数学教育 (帝京大学短期大学教授)</p>	<p>五十嵐 義征 Yoshiyuki IGARASHI</p> <p>客員准教授</p> <p>専門分野 学校経営、外国語活動</p>	<p>安 恩鏡 Eunkyung AHN</p> <p>講師</p> <p>専門分野 環境・ESD教育・子ども支援</p>	<p>薄井 聡子 Satoko USUI</p> <p>講師</p> <p>専門分野 特別支援教育</p>	<p>大森 享 Susumu OHMORI</p> <p>講師</p> <p>専門分野 環境教育・ESD</p>
<p>妹尾 浩 Hirosi SEO</p> <p>講師</p> <p>専門分野 特別支援教育</p>	<p>平松 純子 Junko HIRAMATSU</p> <p>講師</p> <p>専門分野 特別支援教育</p>	<p>森本 尚子 Naoko MORIMOTO</p> <p>講師</p> <p>専門分野 臨床心理、特別支援教育</p>	<p>山内 まどか Madoka YAMANOUCHI</p> <p>講師</p> <p>専門分野 特別支援教育</p>				

◆2年修了プログラム(標準)

(単位:円)

	入学金 ^{※1}	授業料	施設拡充費	学生傷害保険費 ^{※1}	合計
入学時納付金額	200,000	300,000	71,000	1,750	572,750
年額	200,000	600,000	142,000	1,750	943,750

◆スクール・リーダーコース1年修了プログラム^{※2}

(単位:円)

	入学金 ^{※1}	授業料	施設拡充費	学生傷害保険費 ^{※1}	合計
年額	69,800	600,000	142,000	1,000	812,800

◆教育実践高度化コース 3年修了プログラム

(単位:円)

	入学金 ^{※1}	授業料	施設拡充費	学生傷害保険費 ^{※1}	合計	
1年目の納入金	入学時納付金額	200,000	200,000	71,000	2,600	473,600
	年額	200,000	400,000	142,000	2,600	744,600
2年目以降の納入金	半期分	—	300,000	71,000	—	371,000
	年額	—	600,000	142,000	—	742,000

※1 入学時のみ納入。

※2 スクール・リーダーコースの1年修了プログラムにおける納入方法は、全納のみとなります。

* 後期分の納入方法については、本学より通知します(なお、後期分の納入期限は2021年10月末日となります)。

* 学生傷害保険費等、納入金に変更があった場合には、本学ホームページ等でお知らせします。

◆教員採用選考合格者への教職研究科学費免除制度

公立学校の教員採用選考に合格した者に対し学費を免除し、勉学の助成をすることにより質の高い教員養成に寄与することを目的とした制度です。

内容 各自で申請後、最大2年間授業料および施設拡充費を免除します。
注1.免除対象者へは、決定通知書で通知します。
注2.入学金および学生傷害保険費は免除対象外となります。

対象者 帝京大学出身者で、大学(学部)在籍中に公立学校(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のいずれか)教員採用選考に合格した者。または、帝京大学大学院教職研究科在籍中に、公立学校(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のいずれか)教員採用選考に合格した者。(教育委員会の定める着任特例措置を利用できる者。期限付任用教員採用候補者は対象外。若干名の採用)

◆帝京大学大学院沖永奨学生制度

対象：教育実践高度化コースのみ

入学試験において本学が定める基準点以上の成績優秀者を奨学生とし、授業料の50%または25%を減免する制度です。2年次以降も本学の定める期間に申請し、選考により奨学生として採用された場合は同様の減免を受けることが可能です。

◆日本学生支援機構奨学金(貸与)

無利子(第一種)と有利子(第二種)の2種類があります。

対象者 全学年

応募資格 人物・学力・家計が選考基準に該当すること。

応募方法 4月の申込説明会への出席が必要です。構内の掲示板にてお知らせします。

◆地方公共団体・民間育英団体の奨学金(貸与または給付)

本教職研究科生が対象の場合、その都度、構内の掲示板にてお知らせします。

◆入学金減免について

本大学院では、帝京大学グループの大学院・大学・短期大学出身者に対し、入学金を半額にする減免措置があります。帝京大学グループ校出身者で、最終学歴が帝京大学グループ校以外の場合、減免措置申請のため、出願書類に加え、帝京大学グループ校の卒業(修了)証明書も提出してください。

帝京大学グループ校

- 帝京大学
- 帝京短期大学
- 帝京平成大学
- 帝京大学短期大学
- 帝京科学大学
- 帝京学園短期大学



よくあるご質問

Q 現在、教育職員免許状を取得していません。「3年修了プログラム」での入学を希望したいのですが…。

A 本教職研究科では、出願資格として教育職員免許状を既に取得または取得見込みの方を対象とし、出願時および入学時現在において、教育職員免許状を未取得の方は、出願・入学することが出来ません。本教職研究科は、学部段階での資質能力を習得した者の中から、さらに、より実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成、現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクール・リーダー(中核的中堅教員)の養成の2つを主な目的・機能としています。

Q 外国籍でも、日本の教育職員一種免許状を取得していれば、出願資格はありますか？

A 外国籍の方であっても日本国における教育職員一種免許状を取得していれば、本教職研究科において出願資格はあります。なお、日本国以外の教員免許状を取得されていても、日本国における教育職員一種免許状を取得していなければ、本教職研究科の出願資格はありませんので、ご注意ください。

Q 特別支援学校教諭専修免許状の取得を希望する場合の履修方法を教えてください。

A 特別支援学校教諭専修免許状の取得には、特別支援学校教諭一種免許状が必要となります。特別支援学校教諭専修免許状の取得に必要な単位数は、24単位です。本教職研究科では、特別支援教育モデルでの履修となります。またこれらの科目を高度化専門科目群として開講しているため、修了に必要な高度化専門科目群の単位数18単位を超えて履修することになります。この場合の履修方法については、入学後のガイダンス等でご相談ください。